

## 第6学年 国語科学習指導案

平成21年10月28日(水) 第5校時

指導者 竹井 健

### 1 単元名 環境とともに

「エネルギー消費社会」(学校図書 6年下)

「討論会を開こう」(学校図書 6年下)

### 2 単元の目標

説明文の内容に関心を持ち、具体例を挙げながら読み、筆者の主張に対する自分なりの考えをもとうとする。(関心・意欲・態度)

パネルディスカッションの方法について理解し、役割を決めて話し合うことができる。(話す・聞く)

調べたことをもとにして、自分の考えをまとめることができる。(書く)

事実と意見を区別してとらえ、筆者の主張をまとめることができる。(読む)

表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書や辞典を利用して調べることができる。(言語事項)

### 3 指導上の立場

#### (1) 単元について

本単元は二つの学習材で構成されている。環境問題をテーマとした説明文「エネルギー消費社会」では、身近な日常生活の中の出来事から問題を提起し、具体的な事例や資料を提示しながら、環境問題の解決策を理論的に述べている。よって具体例をあげながら読解することで、環境問題の本質がとらえられ、これからの生き方を深く考えることができる学習材である。また、「討論会を開こう」では、説明文で学んだことをきっかけにして、自分たちで調べた事実をもとに考えを持ち、パネルディスカッションの方法を学びながら考えを深め合う「話す・聞く」学習材である。二つの学習材を有効に関連させながら、児童の思考力を伸ばしていきたい。

#### (2) 児童の実態について

本学級の児童は男子16名、女子9名、計25名である。読書を好み、朝学習の読書では「すすめる本100冊」の本を選んで静かに読書することができる。また、辞書を引く楽しさやその有益性を知り、授業中や家庭学習で国語辞典や漢和辞典を積極的に活用できるようになってきた。

説明文の学習では、書かれている事実を文章に即して読み取ることはできるが、接続語や指示語の役割を理解し、文章の構成を考えることが苦手な児童もいる。そのような児童に対して授業中の発表を増やし、学習を充実させるために今年度は導入前に全文を視写し、わからない言葉などを辞書で調べるところを予習として与えている。

6月には説明文の単元「自分の脳を自分で育てる」で、この予習を徹底して行い、段落の要点をまとめる作業をした。児童の授業中の発表が少し多くなり、予習の内容も辞書で調べるだけでなく、学習に関係のある絵や意見・感想をノートに書き込んで学習を充実させている児童もいるが全員が十分とは言えない。

そこで本単元でも「読む」ための一助として予習を行い、予習をしたことを発表する中で「伝える力」も効果的に育成したいと考えている。

#### (3) 指導観について

本校の研究主題は「生き生きと学び合う子をめざして」である。児童が、授業に意欲的に参加し、全員参加の授業を成立させるためには、「読める」ことと発表に対しての準備ができていることが最低条件と考える。そのために、予習として音読とノートへの書き込みをしている。これは国語だけでなく算数や社会などほかの教科でも徹底して行っている。徹底して予習を行うことにより、音読が苦手だった児童も以前に比べて上手に読むことができるようになり、発表が苦手だった児童も調べたことをもとに少しずつ自信をもって発表ができるようになってきた。本単元でもこの予習をもとに授業を展開する。

本単元の学習材「エネルギー消費社会」では、題名読みをすることで意欲的に取り組めるように支援し、言葉を丁寧に扱いながら読み解いていきたい。次に、グラフや図などの資料が多く用いられていることから、資料と文章がどのように結びついているのかを理解できるようにしたい。そして、接続詞や文末表現などから「事実」と「意見」を整理して読み進めることで筆者の考えを的確にとらえられるようにしたいと考えている。

#### (4) 研究テーマとの関わりについて

本校では、小中一貫教育のテーマとして「小中学校の連携による生きる力を持った子どもの育成」をあげている。「学力向上」を重点課題とし、わかる授業づくりをめざして取り組んでいるところである。

国語科では、説明的な文章を中心に、児童の読解力を高めるための授業づくりを研究している。高学年部会では、このテーマをさらにしぼりこんで「効果的な予習の方法と予習をいかした授業の展開」を行おうと研究実践を重ねてきた。その研究過程で、予習は授業中の発表の回数を増やすだけでなく、授業に見通しがもてることで様々な教育効果が現れている。

このように、予習をして授業に臨むことを積み重ねることにより、「予習をして授業に臨むと楽しい」といえる子どもを育成することが小中一貫教育の中で小学校が担う最も大きな役割であり、この役割を追究することがテーマに迫ると考える。

#### 4 指導計画（全14時間）

##### 第一次

- 第1時 パネルディスカッションについて知り、学習の見通しを持つ。
- 第2時 題名から内容を想像し発表し合う。
- 第3時 段落の構成を知り、各段落の概要をつかむ。
- 第4時 段落より筆者の課題提示の仕方、工夫について読み取る。
- 第5・6時 ~ 段落で筆者が取り上げている環境問題の影響について読み取る。
- 第7時 ~ を読み、筆者が述べている対策について読み取る。
- 第8時 段落の要点をまとめ、筆者の主張している対策を読み取る。・・・(本時)
- 第9・10時 ~ 段落を読み、筆者の主張を理解し、自分の意見をまとめる。

##### 第二次

- 第1時 教科書を読んでパネルディスカッションの仕方を理解する。
- 第2・3時 役割を決め、パネルディスカッションの準備をする。
- 第4時 パネルディスカッションを行い、自分の考えを表現したり、関心をもって聞いたりする。

#### 5 本時案（第一次 第8時）

目 標	筆者が主張する対策を読み取り、要点をまとめることができる。(読むこと)	
学習活動	教 師 の 支 援	評価規準・方法等
1 前時までの学習をふり返る。	前時までの学習の流れを掲示しておく。 課題掲示されていたこと、一つ目の対策についての筆者の考えを想起させる。	
2 本時のめあてを確認する。	筆者が主張する対策を読み取り、要点をまとめよう。	
3 学習場面を音読する。	段落を一斉読みさせる。 読む早さに差があるが、全員そろそろまで待たせる。 予習としてまとめておいたことと見比べながら、形式段落ごとに指名読みさせる。	
4 筆者の主張を読み取る。	まとめてきた自分の意見を発表させる。 大切な言葉をおさえ、難しい言葉は読みかえなどして理解できるようにする。 図解を用いたりしながら、筆者の考えの根拠を読み取ることができるようにする。 教科書のグラフを用いたりしながら、筆者の考えを読み取らせるようにする。	内容を要約することができたか(読むこと)
5 効果的な表現について、自力解決する。	効果的な表現と思うところを書き込みさせる。	読み取るのに効果的な表現を見つけることができたか(読むこと)
6 比較検討する。	読み取りやすく書かれているのは、筆者の工夫であることを理解できるようにする。	
7 まとめ読みをする。	筆者が工夫して書いていることを確認しながら、音読させる。	読み取ったことを考えながら音読できたか(読むこと)